

第5回 2016年9月13日(火)

第5回の一류塾では、講師に齋藤ウィリアム浩幸氏（(株)インテカー 代表取締役、内閣府本府参与）と、八木洋介氏（(株)LIXIL グループ 執行役副社長）を、懇親会の特別ゲストには白石真澄氏（関西大学 政策創造学部 教授）をお迎えしました。



【講師 齋藤氏】

第1部では、『グローバルな視点からみた日本企業の課題』と題して齋藤氏が講義を行いました。日系2世として1971年にロサンゼルスで生まれた齋藤氏は、コンピュータのセキュリティなどに使われている生体認証暗号システムの開発に成功したアメリカでも著名なアントレプレナーで、マイクロソフト社に会社を売却して母国・日本に拠点を移し、イノベーションとアントレプレナー育成に取り組んでいます。講義の冒頭、グローバルな視点で世界経済の動向を捉える視点として、Market（市場）、Mother's Nature（地球環境）、Moore's Law（ムーアの法則）をご紹介頂きました。そのうえで、ビジネスの変革が加速する中、単体ではなく複数のモノを組み合わせるビジネスのプラットフォームを創ることが、日本企業がグローバル市場で勝ち残る方法であることを、具体例とともにご説明いただきました。また、ムーアの法則で将来の変化が予測される今、変革への手を打たないことへの強い危機感をお示しになり、これからはチームを管理・統制するマネージャーよりも、アイデアを出しアクションを起こして実現するアントレプレナー型リーダーが必要であるとお話し頂きました。塾生からは、「イノベーションを起こすためには失敗を許容することが重要であると痛感した」や「新たなプラットフォームを創出する決意に大きな励みとなった」といった声があがりました。

第2部では、『人で勝つ-LIXILの挑戦-』と題して八木氏が講義を行いました。冒頭、多くの日本企業に共通する「物事を決められない」という課題を示し、それを克服するための戦略的人事の枠組みや考え方をお話し頂きました。そのうえで、社員が最高のパフォーマンスを出すために「変革と活力の人事」が必要であり、LIXILが率先して日本の本社組織を変革してきた取り組みを具体的にご紹介いただきました。また、今求められているのは、グローバルレベルで力を発揮し変革を起こすリーダーであり、そのための体系的なリーダー育成の事例もご紹介頂きました。さらに、女性の活用などのダイバーシティ活用の利点や実績、その成功の秘訣までもお話し頂きました。最後には、リーダーとして自分の価値観を明確にしてブレない軸を持ち、貪欲に学び続けながら学んだことを実践することの大切さを、「知行合一」の言葉で伝えて頂きました。塾生から、「社員に気づきを生み出す仕組みを短期間で構築し、徹底してやり抜いていることに感銘を受けた」や、「人事の仕事は社員を管理することではなく社員に活力を与えることであり、人事部がチェンジリーダーになるというお話には、ブレない軸と信念の強さを感じた」といった声があがりました。



【講師 八木氏】

懇親会では、一柳塾長による開会の挨拶ならびに、八木氏による乾杯の後、特別ゲストの白石氏から、『ダイバーシティの時代』と題して卓話を頂きました。白石氏からは、女性の活用などダイバーシティが進んだ企業は生産性や人材の定着率、投資家からの評価が高いといった効果があること、ダイバーシティを推進するには「全体最適」を考え、経営トップの意識改革が最重要課題であることなどをお話し頂きました。その後も懇親会の各テーブルでは、講師陣と塾生とのオープンな意見交換や議論が続きま

した。懇親会後に塾生有志が塾長を囲んで行われた放談会では、7月の合宿で親睦がさらに深まった塾生たちが2カ月ぶりの再会を楽しみ、袴を脱いだ交流が夜遅くまで続きました。



【特別ゲスト 白石氏】



懇親会風景



放談会風景